

## 認知症の種類

認知症は大きく3つに分類されます。

運動麻痺や歩行障害等を伴うことが多い

特徴	アルツハイマー型認知症	血管性認知症	レビー小体型認知症
	<p>「アミロイドβ（ベータ）」などの異常タンパク質が脳に蓄積して神経細胞が破壊され、脳が萎縮する。 物忘れの症状から始まり、徐々に進行し、次第に身の回りのことができなくなる。</p> <p>認知症の原因の半数以上を占める</p>	<p>脳梗塞や脳出血などの脳血管障害（=脳卒中）の発症後に引き起こされる認知症。 障害を受けた脳の部位により症状が異なるが、脳卒中が起こるたびに症状が段階的に進行する。</p>	<p>異常タンパク質が神経細胞にたまり、「レビー小体」という変性した細胞が原因で発症する。 進行が速いと言われており、認知機能が変動するのが特徴。</p> <p>幻視やパーキンソン症状（筋肉のこわばり）等がみられる</p>



## 歯周病と関連する全身の病気

# 歯周病と認知症の関係

高齢期シリーズ vol.14

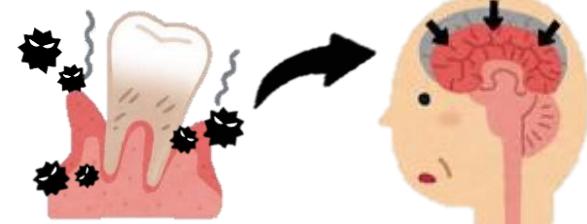
## 歯周病を放置していると認知症が進行する？

40歳以上の約8割が罹患していると言われる歯周病。

歯周病というと口の中の病気と思われがちですが、近年の様々な研究から、認知症とも関連があることがわかってきました。

歯周病にかかっていると、歯周病菌や炎症物質などが血管内に入り込み、血流に乗って脳に侵入し、神経の炎症を起こします。脳内で炎症が起きると、アルツハイマー型認知症の発症因子「アミロイドβ」の生成・蓄積を促進させることができます。

アミロイドβ蓄積  
歯周病菌や炎症物質が血流に乗って脳内に侵入



## 歯が20本以上残っている人は、認知症になりにくい！

近年の研究では、歯がほとんど残っておらず義歯（入れ歯）を入れていない人は、

歯が20本以上残っている人に比べて認知症発症リスクが1.9倍高いことがわかっています。

また、歯がほとんどなくとも義歯を入れていると、認知症リスクを約4割低下できる可能性も示されています。

このことから、**食べ物をよく噛む行為により脳を直接刺激することが認知症の予防に有効**ではないかと考えられています。



毎日の丁寧な歯みがきのほか、歯科医院で定期的なメンテナンスを受けて歯を健康に保つことは、認知症の発症や進行を遅らせることにつながります！